

【2022年育成選手選考基準についての異議申立に関する回答書】

一般社団法人日本ボッチャ協会
代表理事 澤邊 芳明

標記の件に関する当協会の回答は下記のとおりである。

記

- 1, 育成選手（A、B）を各クラス男女1名ずつ合計16名選出することとした理由
育成選手（A、B）を各クラス男女1名ずつにしたのは、これまでの強化の実績からすると、全クラスで合計16名とすることが、全クラスのメダル獲得という目標達成のため、効率的かつ効果的な強化が可能であると判断したためである。
東京パラリンピック参加全選手入賞と複数クラスでのメダル獲得の成績を収めたのは、日本とタイのみであったことから、当協会は、2022年世界選手権、2024年パリパラリンピックの目標を、全クラスメダル獲得とした。そして、この目標を達成するため、以下のとおり育成選手の選考基準等を策定した。
 - (1) 強化指定選手を、各クラス男性2名、女性2名計16名選出することとしたが、16名の選出は過去最大の人数である。そして、育成選手においても強化指定選手同様、男性2名、女性2名計16名とし、一昨年までの12名で構成していた育成選手枠の年齢制限をなくし、4名増の体制とした。
 - (2) 個人戦が男女別となり、種目数が11種目となったが、国際大会参加選手数は10名と変わらないことから、強化選手指定選手16名、育成選手16名、32名の選手を協会として強化し、32名から国際大会参加選手を選考していくこととした。
 - (3) 育成選手を16名以上にすることは、スタッフ数の確保等に限界があるため、宿泊場所の確保や安全管理等が不十分になる懸念があり、強化指定選手との合同合宿が困難となり、強化指定選手や発掘事業との連携も困難となることから、16名までの選考人数とした。
 - (4) 選手の強化体制として、①全体合宿、②クラス別合宿の実施、③メダルを獲得することができた2016リオパラリンピック、2020年東京パラリンピックにおける強化体制の各実績から、各クラス4名の選手を合同合宿で強化することが効果的な強化体制と考え、また、2022年シーズンから個人戦が男女別になり、ペア戦は男女ペアになることから、育成選手を各クラス育成A男女各1名、育成B男女各1名、各クラス男女2名、計4名の構成とした。
- 2, これまでの育成強化との違い
育成選手（A、B）を各クラス1名ずつとした理由は上記のとおりであるが、2022年の育成選手強化と従前の育成選手強化との相違点は次のとおりである。
 - (1) 育成選手のカテゴリーを、育成Aと育成Bに分ける。
育成Bは、予選会の成績やBチャレンジ事業の結果から入れ替えが実施され、育成Aは、年間を通し、これまでの育成合宿よりも多くの日程を確保し強化する。
 - (2) 育成事業内で国際大会選考試合への推薦、および、アジアパラ競技大会参加の推薦を行うことで、育成選手にも国際大会経験の場につながる機会を設ける等、育成事業を越えた強化機会を設定する。
 - (3) 当協会だけが選手育成をするのではなく、Bチャレンジ等、地域と連携して選手育成を行う。
 - (4) 強化選手で実施していた国際大会選考会や、今年度から実施する、予選会での成績やBチャレンジの成績及びJ-STAR選手の参加による育成B選考会や国際大会選考会推薦選手を決定する選考合宿など、育成選手（A・B含む）各クラス男女2名ずつでなく、男女各3名から5名で実施するような合宿を実施していく（この計画についてはオンライン説明会で公表している通り）。

以上